

平成29年 3月23日

各局室企画担当課長 様
各区総務課長 様

環境局環境企画部主幹 (生物多様性推進)
緑政土木局主幹 (農業振興)

外来種クビアカツヤカミキリに関する注意喚起及び情報提供に
ついて (依頼)

日頃から、当局の自然環境施策及び農林水産施策にご理解、ご協力いただき、
ありがとうございます。

平成29年 3月10日付け28自環第1015-1号及び28農経第1168-1号 (別添) によ
り、愛知県環境部長及び農林水産部長から、外来種*Aromia bungii* (以下「クビ
アカツヤカミキリ」という。) に関する注意喚起及び情報提供に係る依頼があ
りました。

現在、愛知県内では、クビアカツヤカミキリは海部地域の一部において生息
が確認され、街路樹や個人宅の庭木等への被害が発生しており、今後、本市へ
の侵入やそれに伴う樹木等の被害が懸念されます。

つきましては、下記のとおり対応してくださるようお願いいたします。

記

1 管理施設に関する注意喚起及び情報提供

貴局区室の管理施設において、樹木等にクビアカツヤカミキリ又はその
発生が疑われる状況が確認された場合は、調査を実施するとともに、まん
延防止のため、駆除等の適切な防除を実施してください。

併せて、環境局なごや生物多様性センター (電話 831-8104) に連絡し
てください。

2 その他

貴局区室において、クビアカツヤカミキリの目撃や被害相談等の情報が寄せられた場合は、次のとおり連絡してください。

- (1) 農地については、
緑政土木局都市農業課 (電話 972-2499)
- (2) それ以外については、
環境局なごや生物多様性センター (電話 831-8104)

※ 備考

- (1) サクラ、ウメなどのバラ科を中心とした樹木への寄生を好む種であり、都市景観への甚大な影響が懸念される種です。
- (2) 28自環第1015-1号の別紙「クビアカツヤカミキリ (*Aromia bungii*) について」に特徴がまとめられていますので、ご覧ください。

環境局環境企画部環境活動推進課 (なごや生物多様性センター)

担 当 岩田・佐藤

電 話 8 3 1 - 8 1 0 4 ファクシミリ 8 3 9 - 1 6 9 5

電子メール bdnagoya@kankyokyoku.city.nagoya.lg.jp

緑政土木局都市農業課

担 当 鈴木・久野

電 話 9 7 2 - 2 4 9 9 ファクシミリ 9 7 2 - 4 1 4 1

電子メール a2461@ryokusei.doboku.city.nagoya.lg.jp

28自環第1015-1号
28農経第1168-1号
平成29年3月10日

各市町村長 殿

愛知県環境部長
愛知県農林水産部長
(公印省略)

Aromia bungii (クビアカツヤカミキリ) に関する注意喚起及び
情報提供について (依頼)

日ごろから、本県の自然環境行政及び農林水産行政に御協力いただきありがとうございます。

平成29年2月28日付け環自野発第1702284号、28消安第5193号で、環境省自然環境局野生生物課長及び農林水産省消費・安全局植物防疫課長から別添のとおり、生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種 *Aromia bungii* (以下「クビアカツヤカミキリ」という。) に関する注意喚起及び情報提供依頼がありました。

現在、本県においては、クビアカツヤカミキリは海部地域の一部において生息が確認され、街路樹や個人宅の庭木等への被害が発生しており、今後、他の地域への拡大や農作物等における被害が懸念されます。

つきましては、下記のとおり対応して下さるようお願いいたします。

記

- 1 公園や街路樹等でクビアカツヤカミキリ又はその発生が疑われる状況が確認された場合は、調査を実施するとともに、まん延防止のため、成虫の捕殺等の適切な防除を実施してください。
- 2 貴市町村内において、クビアカツヤカミキリの発生又はその発生が疑われる状況を確認した場合は、速やかに環境省中部地方環境事務所野生生物課 (電話：052-955-2139) 及び管内の東三河総局・県民事務所環境保全課に連絡してください。
なお、既に発生が確認されている地域については、この限りではありません。
- 3 農地での発生又は発生が疑われた場合は、管内の農林水産事務所農業改良普及課に連絡してください。

担当 自然環境課 野生生物・鳥獣グループ (小川)
電話 052-954-6230 (ダイヤルイン)
FAX 052-963-3526
メール shizen@pref.aichi.lg.jp

担当 農業経営課 環境・植防グループ (吉田)
電話 052-954-6411 (ダイヤルイン)
FAX 052-954-6931
メール nogyo-keiei@pref.aichi.lg.jp

環自野発第1702284号
28消安第5193号
平成29年2月28日

各都道府県野生生物担当部局長 殿

環境省自然環境局野生生物課長
農林水産省消費・安全局植物防疫課長
(公 印 省 略)

Aromia bungii (クビアカツヤカミキリ) に関する注意喚起及び情報
提供依頼について

日頃より野生生物行政及び植物防疫行政に御協力を頂き感謝します。

平成24年に愛知県のサクラで我が国で初めて発生が確認された、*Aromia bungii* は、サクラのほかウメ等のバラ科を中心とした多種の樹木を加害することが知られています。このため、発生地においては、調査及び防除が実施されているところですが、また、当該虫は、平成27年3月に環境省及び農林水産省が作成した「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」に総合対策外来種として記載されているほか、現在、外来生物法に基づく特定外来生物に指定し、意図的な放虫、運搬等を禁止する方向で検討を進めています。

こうした中、環境省自然環境局野生生物課外来生物対策室及び農林水産省消費・安全局植物防疫課においては、当該虫の発生状況調査等による情報収集を実施しています。この結果、平成28年度においては栃木県、群馬県、埼玉県、東京都、愛知県、大阪府及び徳島県の公園、街路樹、学校、園地等のサクラ、ウメ、モモ等において当該虫の発生が確認されており、確認範囲は徐々に拡大している傾向があります。

当該虫による被害は公園、街路樹等のサクラに多い状況ですが、加害が進むことで、枯死、落枝、倒木等による人的被害の発生が懸念されるとともに、当該虫が果樹園や生物多様性保全上重要な地域（自然公園、自然環境保全地域等）等に侵入することで、農作物や生態系へ被害が拡大することが懸念されます。

このため、環境省及び農林水産省は、当該虫の防除に係る情報共有、指導等の連携を図るとともに、今後、必要に応じて更なる対応を検討していく予定です。貴職におかれては、下記のとおり対応するよう要請します。

記

- 1 野生生物担当部局及び農林水産担当部局は、当該虫に関する情報共有を十分に行うとともに、防除体制を整備すること。
- 2 野生生物担当部局は、市町村に対して、当該虫の発生に関する情報提供を行うとともに、公園、街路樹等で当該虫又は当該虫の発生が疑われる状況が確認

された場合は、調査を実施するとともに、まん延防止のため、成虫の捕殺等の適切な防除を実施するよう指導すること。

- 3 農林水産担当部局は、生産者への営農指導、発生予察事業の調査等において、当該虫又は当該虫の発生が疑われる状況を確認した場合は、速やかに最寄りの農林水産省植物防疫所に連絡するとともに、まん延防止のため、成虫の捕殺等の適切な防除を実施すること。
- 4 野生生物担当部局及び農林水産担当部局は、当該虫の新たな地域での発生に関する情報収集に努めるとともに、当該情報が得られた場合は、速やかに最寄りの地方環境事務所又は植物防疫所に連絡すること。また、市町村に対して、同様の情報収集に努めるとともに、当該情報が得られた場合には最寄りの地方環境事務所又は植物防疫所に連絡するよう指導すること。

クビアカツヤカミキリ (*Aromia bungii*) について

1. 生態等について

【分類】コウチュウ目 ハムシ上科 カミキリムシ科

【学名】*Aromia bungii*

【和名】「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」では、“クビアカツヤカミキリ (クロジャコウカミキリ)”を使用している。一部では、クロジャコウカミキリと呼称している場合もあるが、原則としてクビアカツヤカミキリを使用している。

【原産地】中国、台湾、朝鮮半島、ベトナム北部など

【体長・体色】成虫の体長は、約 2.5～4センチ。全体的に光沢のある黒色で胸部（首部）が赤い。海外では、胸部（首部）が黒い個体も確認されている。

【被害・生態】幼虫が生木に食入・加害することで樹木を衰弱させる。幼虫が生木の内部を摂食（その際、フラス（木屑等）を排出）し、樹木内で2～3年かけて成長、蛹となり、我が国の発生地では6月中旬～8月上旬頃に成虫となって樹木の外に出る。雌成虫は、交尾後、幹や主枝の樹皮の割れ目に産卵する（8～9日後にふ化）。

【寄主植物】サクラ、セイヨウスモモ、ウメ、モモ、カキ、オリーブ、ハコヤナギ、ザクロ、コナラ、ヤナギなど

【写真】



成虫（植物防疫所原図）



枝にたまったフラス（植物防疫所原図）



幼虫による食害（植物防疫所原図）

2. 発生状況

本種の成虫又は本種が疑われるフラス（木屑等）が確認された地域は以下のとおり（平成 29 年 1 月時点）。

発生確認年	都道府県	主な確認場所
平成 28 年	栃木県	河川敷の林で成虫のみ確認
	群馬県	公園・街路樹・神社仏閣のサクラ
	埼玉県	用水路沿いのサクラ
	東京都	公共施設のサクラ
	愛知県	公共施設のサクラ、民家のウメ
	大阪府	公園のサクラ、ウメ園地
	徳島県	公園神社のサクラ、果樹園のモモ・ウメ・スモモ

3. 調査・防除方法

通常の管理の範囲内でフラスが確認された場合、本種の発生が疑われるため、フラス確認後は、成虫の発生時期（6～8月）に当該樹木を中心に成虫の有無を調査する。

成虫を見つけた場合は捕殺するとともに羽化した成虫の分散防止及び新たな産卵を防止するため、羽化期から成虫の産卵時期（6～8月）に、ネット（防鳥ネットとして利用されているもので容易に切れないもの、目開き 4 mm 以下）等を寄生木と疑われる樹木の樹幹に巻き付ける。幹にぴったりと巻き付けると幼虫や成虫が食い破るため、幹に密着させないように巻く。ネットを何重にも巻くと内側が見えづらくなるとともに、

内部が蒸れて樹が弱るため、1周から1周半程度にする。ネットを放置すると羽化した成虫が隙間から逃げるため、定期的に見回って成虫を捕殺する。

また、複数の食入孔や脱出口が確認された樹木については、完全な駆除は困難であるため伐倒処理をすることが望ましい。伐採樹木及び枯死した樹木を放置したり、安易に移動させることは、当該種の拡散による被害の拡大につながるため、伐採樹木等については放置せず、早期に焼却又はチップ化する。伐採作業及び伐採した樹木の移動はなるべく成虫発生時期（6月～8月上旬）を避け、やむを得ず上記の期間に移動させる場合は成虫が逃げ出さないように注意する。また、伐採後に残った根（切り株）に穴が開いている場合は本種の幼虫が内部に残っている可能性があるため、ビニールシート等で覆い、成虫が脱出しないようにする。

なお、当該種による加害が進むと、落枝、倒木等による人的被害が発生するおそれがあるため、その観点からも注意が必要。



ネットを樹幹に巻き付けている様子

【登録農薬】

- ・ 樹木類のカミキリムシ類：MEP 乳剤
- ・ 果樹類のカミキリムシ類：昆虫寄生性糸状菌製剤

WANTED !

外来カミキリムシにご用心！ サクラ・ウメ・モモピンチです

もともとは日本にいないクビアカツヤカミキリという大きなカミキリムシが、国内で相次いで見つかっています。この虫はサクラやウメ・モモなどの木の幹の内側を食い荒らして、被害がひどくなると木は枯れてしまいます。この虫を見つけたらすぐに「退治」が一番です。下の写真のようなカミキリムシの成虫や、サクラなどの木からの虫のくいかす(フラス)を見つけたら、地元の自治体および下記連絡先にお知らせください。



フラス ひき肉状に連なって出てくることが多いですが、春先や枯れた木からはパラパラとまとまらずに出てきます。



脱出孔 成虫は細長い穴を幹にあけて出てきます。

幼虫が木の中に多いと、フラスが地面を覆ってしまうこともあります。

成虫 5月の末から7月まで見られます。6月に多く出てきます。体の大きさは触角ぬきで3-4cm。

問い合わせ連絡先

国立研究開発法人森林研究・整備機構

森林総合研究所 森林昆虫研究領域

穿孔性昆虫担当チーム

電話 029-829-8251

電子メール sakurakamikiri@ml.affrc.go.jp

桜の木を食べて枯らす外来種の昆虫「クビアカツヤカミキリ」が愛知、東京など7都府県で確認され、環境省は輸入や飼育、野外への放逐を禁ずる「特定外来生物」に指定する方針を決めた。専門家は「対策を取らないと、将来、花見ができなくなる」と警告している。

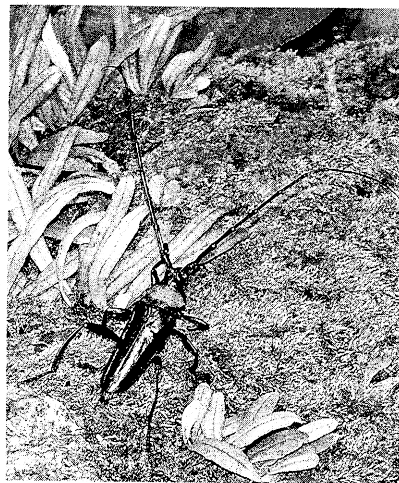
(橋本誠)

埼玉県生態系保護協会草加・八潮支部長の加納正行さん(ハシ)は二〇一三年夏、埼玉県草加市の桜の名所「葛西用水」の自然観察会で、小学生から「これ何ですか」と全体がつやありの黒色で一部が赤い虫を見せられた。初めて見るカミキリだったため、研究機関に持ち込んだところ、クビアカツヤカミキリと判明した。国内での発見「第二号」だった。

環境省によると、クビアカツヤカミキリの成虫は体長二・五〜四センチ。赤い部分は首のように見えるが、胸

お花見に害虫の影

外来カミキリ桜食べ枯らす危険



部。幼虫はバラ科の桜や梅、桃のほか、オリーブなどの樹木を食べて一〜四年かけて成虫になる。原産は中国、朝鮮半島、ベトナムなどで、輸入木材に生息していたものが国内に入り込んだ可能性がある。

クビアカツヤカミキリの成虫は農水省植物防疫所提供の桜の下で花見をする人たち=昨春、千葉市で



「第一号」は二二年、愛知県海部郡の神社で見つかった。愛知県農業経営課の担当者は「採集に来る人がいる。拡散を防ぐため、具体的な場所は公表していない」。

その後、埼玉、群馬、東京、大阪、徳島、栃木で確認が続いた。桜の被害が目立つが、徳島では果樹園の桃も食害に遭っている。環境省の担当者は「これまで、桜の食害が問題になるようなカミキリは日本にいなかった」と話す。クビアカツヤカミキリは食欲旺盛で、大量の「フラス」と呼ばれる木くずやふんを出す。

繁殖力が強いのも特徴だ。日本大の岩田隆太郎教授(森林・木質昆虫学)は「日本のカミキリの倍以上の二百〜三百個の卵を産み、多摩川沿いの桜二十五本で見つかった東京都福生市の

「第一号」は二二年、愛知県海部郡の神社で見つかった。愛知県農業経営課の担当者は「採集に来る人がいる。拡散を防ぐため、具体的な場所は公表していない」。

その後、埼玉、群馬、東京、大阪、徳島、栃木で確認が続いた。桜の被害が目立つが、徳島では果樹園の桃も食害に遭っている。環境省の担当者は「これまで、桜の食害が問題になるようなカミキリは日本にいなかった」と話す。クビアカツヤカミキリは食欲旺盛で、大量の「フラス」と呼ばれる木くずやふんを出す。

繁殖力が強いのも特徴だ。日本大の岩田隆太郎教授(森林・木質昆虫学)は「日本のカミキリの倍以上の二百〜三百個の卵を産み、多摩川沿いの桜二十五本で見つかった東京都福生市の

強い繁殖力、対策急務

日本で働いた経験もある実業家のウィリアム・ハガティ氏の起用が先月、報じられた。政権移行チームも認めている

は、あと一年はかかる。駐日大使も赴任まではまだ、時間がかかるのではないかと予測した。

では、防虫ネットを巻いたり、農水省で試験中の薬剤を散布したりしている。「それほど枯れていないので、伐採はまだしていない」(市の担当者)。都公園建設課は「都立公園で被害は確認していない」ため、対策はこれからだ。

だが、岩田教授は「桜に温情をかけては駄目だ。虫が発生している場所と周辺の桜は全部切る必要がある」と指摘する。全ての幼虫を見つけることは容易ではなく、漏れが出るからだ。「伐採した木は埋めたり、粉々に破砕したりするしかない」と強調する。

「桜は大きいから処分も大変だが、やらないと日本中の桜がなくなってしまう。数十年前、日本中に松の並木があったが、松くい虫の食害で、ほとんど残っていない。対策をとらなければ、数十年で桜にも同じことが起きる」と警鐘を鳴らす。